

福岡県感染症発生動向調査感染症週報

令和8年第17週（令和8年4月20日～令和8年4月26日）

福岡県感染症情報センター

■ コメント

- ・大型連休中は、大人数で集まる機会や不特定多数との接触が多くなります。こまめな手洗い、適切なマスクの着用等の基本的な感染防止対策を心がけましょう。また、海外旅行される方は、渡航前に、渡航先で流行中の感染症を確認し、正しい予防法を身に付け実践しましょう。
- ・麻しんの報告が国内外において増加しており、今後の動向に注意が必要です。麻しんは、極めて感染力が強く、感染すると約10日後に発熱や咳、鼻水、眼の充血等の症状が現れ、2～3日熱が続いた後、39℃以上の高熱と発しんが出現します。麻しんを疑う症状が現れた場合は、必ず事前に医療機関に電話で相談し、医療機関の指示に従って速やかに受診してください。受診の際は、周囲への感染拡大を防ぐために、必ずマスクを着用し、公共交通機関の利用は控えてください。麻しんは、手洗い、マスクのみでは予防できず、ワクチン接種が最も有効な予防法です。定期接種の対象年齢で、未接種の方は早めに予防接種を受けましょう。

■ 全数把握疾患報告

病名	福岡県		全国（前週）	
	報告数	累積報告数	報告数	累積報告数
結核	17	251	249	4,131
腸管出血性大腸菌感染症	4	28	70	571
レジオネラ症	1	22	32	504
急性脳炎	1	9	2	144
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	28	20	464
侵襲性インフルエンザ菌感染症	1	9	6	158
侵襲性肺炎球菌感染症	1	45	52	1,010
梅毒	11	215	198	3,253
百日咳	3	108	90	2,436

■ 定点把握疾患報告数

 : 警報

 : 注意報

病名	福岡県			全国（前週）	
	報告数	定点当たり	前週比	報告数	定点当たり
新型コロナウイルス感染症	43	0.35	1.43	2,556	0.68
インフルエンザ	47	0.39	0.62	3,457	0.92
急性呼吸器感染症	6,543	53.63	1.08	186,273	49.95
RSウイルス感染症	126	1.80	1.42	1,337	0.59
咽頭結膜熱	63	0.90	1.26	581	0.26
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	385	5.50	1.00	6,673	2.96
感染性胃腸炎	416	5.94	0.95	11,424	5.06
水痘	51	0.73	0.96	726	0.32
手足口病	61	0.87	1.13	411	0.18
伝染性紅斑	2	0.03	0.40	190	0.08
突発性発しん	34	0.49	1.13	619	0.27
ヘルパンギーナ	12	0.17	1.71	105	0.05
流行性耳下腺炎	5	0.07	1.67	78	0.03
急性出血性結膜炎	0	0.00	0.00	8	0.01
流行性角結膜炎	36	1.38	1.57	258	0.37
細菌性髄膜炎	0	0.00	0.00	8	0.02
無菌性髄膜炎	0	0.00	0.00	23	0.05
マイコプラズマ肺炎	2	0.13	2.00	81	0.17
クラミジア肺炎	0	0.00	-	8	0.02
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	1	0.07	0.50	32	0.07

麻しんの感染拡大防止に向けた県民の皆様へのメッセージ

- 重症になりやすく、感染力が極めて高い麻しん（はしか）が、2020年以降最多となるペースで感染拡大しています。麻しん（はしか）は、マスクや手洗いでは感染予防として十分ではなく、ワクチンが重要です。麻しん（はしか）は、「かかってもたいしたことはない」感染症ではなく、肺炎・脳炎・腸炎などで重症化することも多く、先進国でも重症化することもあり、1,000人に1人死亡するとされている感染症です。更なる感染拡大防止のため、以下の事項について、ご協力をお願いいたします。

<麻しん（はしか）を疑う症状がある場合の対応>

- 麻しんを疑う症状がある場合は、外出を控えるとともに、受診する場合には、事前に医療機関に連絡の上、医療機関の指示に従ってご対応いただくようお願いいたします。
- 感染拡大防止のため、受診の際には、公共交通機関の利用を可能な限り避けることについて、ご協力をお願いいたします。

<保健所の疫学調査へのご協力>

- 麻しん（はしか）の感染拡大防止には、患者や接触者に対する保健所による調査が重要です。ご協力をお願いいたします。

<ワクチン接種のご検討>

- ご自身の発症予防、重症化予防、集団としての感染拡大防止の観点から、ワクチンは2回接種することが重要です。
- お子様が麻しん・風しんワクチンの定期接種の対象である1歳又は就学前1年間にある場合、積極的に早期の接種をご検討ください。
- 海外では大きな流行が複数の国で報告されています。接種が不十分な場合、渡航の2週間前までに接種することをご検討ください。
- 2000年4月1日以前に生まれた方は、当時の感染状況もあり、2回の定期接種が行われていない可能性があります。母子健康手帳等で、過去の麻しんの罹患歴又は2回の接種記録を確認できない方は、今一度、麻しん・風しんワクチンの接種をご検討ください。なお、今回の流行は10代～40代の方を中心に流行していることも踏まえ、特にこの年齢層の方はご検討をお願いいたします。

<特にご注意いただきたい方々>

- 特に、以下の方々は、接種が不十分な場合、ワクチンの接種をご検討ください。
 - ・ 保育園や学校職員、医療機関職員など、小さいお子さんや患者さんと接触する機会の多い方
 - ・ 空港職員、観光業スタッフなど渡航者と接触する機会の多い方
- また、以下の方々は、感染すると重症化すると言われておりますのでご注意ください。
 - ・ 妊娠中は麻しん風しんワクチンの接種はできません。早産や流産のリスクがあるため、妊娠前の接種をご検討ください。
 - ・ 免疫不全のある方は、主治医の方と相談のうえ、麻しん風しんワクチン接種をご検討ください。
 - ・ 乳幼児は、肺炎や脳炎を起こすリスクがありますので、ご家族の接種歴をご確認ください。

詳しくは、県ホームページ（麻しん（はしか）に注意しましょう） →
をご覧ください。

